

「いじめについて考える日」校長講話

君たちは、サッカー日本代表の鈴木武蔵という選手を知っていますか？アルビレックス新潟やコンサドーレ札幌を経て、2020年8月にベルギー1部リーグのベールスホットに移籍して活躍しています。前回のリオデジャネイロオリンピックにも出場して、1得点をあげています。この武蔵選手はジャマイカ（カリブ海に浮かぶ島国で秋田県とほぼ同じ面積）生まれで、父はジャマイカ人、母は日本人です。6歳で群馬県太田市に移り住みました。（太田市というのは、先日オーストラリア女子ソフトボールチームが一番乗りした、オリンピック事前合宿のホストタウンでもあります）

《陸上 100 メートル競技者のケンブリッジ飛鳥選手もジャマイカ人の父と日本人の母を持つハーフです》

ハーフで父親の肌の色を受け継いだ武蔵少年は、すんなりと日本人として社会に受け入れられたわけではありませんでした。小学校3年生の時には「おーい、ハンバーグ！」とか「お前、ハンバーグよりも大きなフライパンだな」と肌の色をさして、嫌なことを言われ続けました。彼は、肌の色を白く見せるために、ベビーパウダーを全身に塗ったこともあったそうです。悲しい話ですね。そんな武蔵少年はサッカーに救われたと、自分の本に書いています。「ゴールを決めるたびに、仲間たちが駆け寄ってくれて喜んでくれた。それがうれしかった」と。高校2年生の時には、U-17（17歳以下代表）ワールドカップにも出場。「日本人として認められた」と実感したそうです。でも、これっておかしくないですか？日本人の母親を持ち、日本に帰ってきたのですから、正真正銘の日本人ですよね。もちろん、日本国籍を持っています。でも、武蔵少年はそう感じずにはいられない人生を歩んできたのです。

前置きが長くなってしまいましたが、今日のお話しの重要なところはここからです。この武蔵選手ですが、先ほども言ったように、サッカー選手として活躍しています。ところが、活躍が認められた2019年にツイッター上で「あの見た目で日本代表なんて（ありえない）」と書き込みがされたそうです。そこには、「妬み」や「やっかみ」もあるでしょう。成功者への尊敬の念ではなく、自分ができないことへの、劣等感の裏返しなのかもしれません。それを知った武蔵選手は悲しみや怒りを感じたが、感情的に反論しても何も生まれないと考え、次のように返したそうです。「僕に報告してくれた方ありがとうございます。でも大丈夫ですよ。サッカーで見返すしかないですからね。そうやって小さい頃からやってきたので。お父さんの血がなかったら日本代表になれてなかつたと思いますし、ハーフである事、日本という素晴らしい国で育った事に感謝しています」と。

ツイッターなどのSNSで、自分は匿名（名前を伏せて）で他人を平気で傷つける事件が後を絶たないですよね。そのせいで、命を自分で絶った人もいますよね。悲しいというより、怒りを感じます。そんなことをする理由がわかりません。本当に卑怯な行為です。やっていることがどんなに恥ずかしいことなのか、わからないのでしょうか？「命」がどれだけ尊く、かけがえのないものであることを、ここで、校長先生がどれだけ大きな声を出しても、出さ

なくても、みなさんはわかってくれますよね。しかし、実際にそのような「人として絶対やってはいけない行為」をしてしまうのも、また人なのです。そこに、理由や言い訳のはいる余地（隙間のこと）はありません。あかんもんはあかんのです。

さて、肌の色のことで言えば、色鉛筆や絵具のメーカーである「ぺんてる」の担当者によると、肌色という名称に関して「お客様からの要望を受け平成11年からクレヨンなどすべての製品の『肌色』を『ペールオレンジ』に変えています」とのこと。「海外にも生産拠点があります。国際的な感覚は大事ですし、お客様が不快に思うものを作るわけにもいきません」という話です。「トンボ鉛筆」では、「はだ色」への風当たりが強くなり、ほかのメーカーと足並みをそろえて平成12年の生産から、『うすだいだい』に変更してしまったそうです。つまり、色鉛筆は平成12年、クレヨンと絵の具は平成19年に、少なくとも14年前には「肌色」という表記はしなくなつたわけです。

これは、ある意味、校長先生はショックでした。ほんやりとクレヨンなどに「肌色」という呼び方をしなくなつたとは聞いていました。でも、それくらいの感覚であって、積極的に『ペールオレンジ』とか『うすだいだい色』という風には使ってこなかつたのです。この「知らないうちに」「知らず知らず」と言う言葉が曲者です。実はここに、差別の温床があつたのかもしれないからです。

肌色は一色でないといけないという思い込み、それが差別を生み出す遠い原因になると思います。先ほどの武蔵選手はこうも語っています。「日本人は『差別はしていない』と言つても、気づかないところ（心の奥底）で拒否している。（これまで）見た目が違う人と触れ合う機会も少なく、差別を目の当たりにしたことがない場合が多い」と。

しかし、これから時代は違いますよね。国際社会で生きていく君たちですから、肌の色などの外見で判断をしたり、傷つけるということがあつてはなりません。武蔵選手が望むことは、人種、宗教、文化の違いを受け入れ、多様性のある社会が実現されることだそうです。今日のこの「いじめを考える日」を一つのきっかけに、自分は知らず知らずのうちに、誰かを傷つけたりはしていないか。いじめをしていないか。あるいは、いじめを見逃したり、見て見ないふりをしていないか。など、差別をしてはいないか、ぜひとも自己点検をしてみてください。よろしくお願ひします。